

「飾磨まつり」が宵宮



播州秋祭りの本格開幕を告げる「飾磨まつり」の宵宮が8日、姫路市飾磨区の

恵美酒宮天満神社と浜の宮天満宮であった。台風18号の影響で、浜の宮の屋台は宮入りを目撃したが、4台が港に並び、姫路開港50周年を記念して練り歩いた。

屋台は24人の男たちが抱きかかると、浜の宮の港に集結し、飾磨まつり「飾磨まつり」の宵宮が8日、姫路市飾磨区恵美酒宮天満神社と浜の宮天満宮であった。



開幕告げ熱く

浜の宮天満宮では姫路開港50周年を祝い、天神、大浜、中細江、南細江の屋台4台が天満宮から約1.5kmの飾磨の行事に参列した。

飾磨区に集結、各地区役員にまで、屋台が港に並ぶのは1959年の旧飾磨の行事以来と見られる。飾磨神社が2時間遅れて午前11時に始まり、宮入りを目撃した屋台が地元の間を練り歩いた。4台の屋台は午後4時に港に集まった。漁船が並ぶ波止場へ、練り手が屋台を頭に差し上げると拍手が沸き起こった。地元海地区は氏子の減少で昨年からは屋台を出していないが、せめてものもてなしと自治会女性部が他地区の練り手らに温かいにおもてなしを振る舞った。女性部代表の大森喜子さん(82)は「導きまで集まってくれられたい」と喜んだ。

9日の本宮では、市書無形民俗文化財「台場練り」が披露される。当地の天神地区祭典委員長、水田裕一郎さん(68)は「両宮でこそ非常に残念。本宮に力を集中させたい」と話した。(中川 恵)

「台場練り」境内沸く

恵美酒宮天満神社では台風が通過後、天候が回復し、屋台8台が宮入り。神社前には、町練りを終えた屋台が午後から続々と集結し、「ヨイヤサー」の掛け声と手拍子が入り乱れた。石屋居の拝殿前では、市書無形民俗文化財の力技「台場練り」が披露された。高々と差し上げた屋台の下に24人が降り込み、杵木を筒に練り手が手を離す。肩で泥台を支えた24人は歯を食いしばり、屋台を上下に揺らした。栗細地区練り頭の榎本太郎さん(84)は「台風一過の天候に練り最盛況と風評。2、3台の練り合わせも練りかけられ、境内を熱気で包んだ。初めて屋台を担いだ御幸地区の中学1年生、宮田康喜君(13)は「あざがけの法被を着て気分が入った。早く台場練りがしたい」と目を輝かせた。9日の本宮は5年ぶりの「本神事」。午前9時に神輿行列と屋台8台が神社を出発し、御旅所となる中部飾磨公園(飾磨区新倉)で屋台を練り合わせる。(山岸 洋介)

海地区の女性らが振る舞った温かいなにおもてなしを打つ子どもたち



開港50周年を記念し港に集まって練る屋台「いずれ姫路市飾磨区須加」(撮影・高田裕司)

屋台4台港に集結

恵美酒宮天満神社と浜の宮天満宮であった。台風18号の影響で、浜の宮の屋台は宮入りを目撃したが、4台が港に並び、姫路開港50周年を記念して練り歩いた。